

第58回（令和4年）県民功労者表彰受章者

事 績 概 要

（注）受章者の年齢については、受章日（令和4年4月14日）現在で表記しています。

事 績 概 要

地方自治功労

藤田 正美

伊勢市 70歳



氏は、平成三年四月、地域住民の推挙により、三重県議会議員に初当選してから連続五期二十年の永きにわたり、住民の信望を一身に集め、県政の推進と県民福祉の向上に献身的な努力を重ね、地方自治の発展に寄与した。

この間、厚生常任委員長、水資源対策特別委員長、土木常任委員長、総務企画常任委員長等の要職を歴任し、成人病予防対策などの保健医療行政をはじめ、産業廃棄物にかかる税の新設の検討から導入、地震対策などの防災対策の推進、公共事業のコスト縮減への取組とともに入札・契約制度のさらなる改革、三重県における長期総合計画に基づく実施計画の推進など、委員長としての手腕を余すところなく発揮し県政推進に多大な貢献をした。

さらに、平成十八年五月から翌年四月まで、県議会議長として、卓越した識見と情熱をもって円滑な議会運営に尽力した。

このほか、四日市港管理組合議会議員、国土利用計画地方審議会委員、屋外広告物審議会委員に就任し、豊富な経験と情熱をもって各分野において的確な指針と助言を与えた。

このように、氏の地方自治の振興発展に寄与した功績はまことに顕著である。

事 績 概 要

文化功労

橋本 三重子

津市 86歳



氏は、昭和五十年から橋本綵可氏に師事し、日本画の彩潮会に入門。昭和五十九年には、津市の友好都市である江蘇省鎮江市を親善訪問し、その後、津市・鎮江市芸術文化交流協会会長として鎮江市との交流を重ねた。また、ドイツ、ケニア等で開催された国際的な美術展への出品や、フランス、モロッコ等で個展を開催するなど、日本画を通じて日本文化を発信し、国際交流の一翼を担ってきた。

フランス芸術家協会主催の国際公募展「ル・サロン」では、銀賞、銅賞を含めて十三回の入賞、入選を果たし、平成十七年に永久会員となった。その他にも、日展、日春展、世界基準国際芸術文化協会認定・国際芸術文化賞をはじめ、国内外で数多くの入選、受賞歴を有する。また、書道においても、三重県書道連盟展の特別賞をはじめ、毎日書道展、読売書法展などで入賞、入選を果たし、三重県書道連盟理事として、書道芸術の振興にも尽力している。

さらに、三重県生涯学習センターや三重県教育文化会館の講師を務めるほか、平成十八年からは彩潮会の主宰となり、後進の指導に当たり、子弟から、ル・サロン、日展、日春展、県展等に入賞者、入選者を輩出している。

このように、氏の芸術文化の振興発展に寄与した功績はまことに顕著である。

事 績 概 要

保健衛生功労

吉田 壽

津市 85歳



氏は、昭和五十五年四月に津地区医師会理事に就任以来、平成二十九年六月まで三十七年の永きにわたり、医師会役員として、保健・医療・介護等の充実と発展に努めるとともに、同医師会の更なる発展に大きく寄与した。

この間、津地区医師会館の建設や三重看護専門学校の開設等に尽力するとともに、平成十六年四月からは津地区医師会会長として、医師会事業の遂行について精力的に取り組み、特に津市の救急医療体制の構築においては、組織の要として献身的な活躍をしてきた。また、医師会立として県内初となる訪問看護ステーション及び在宅介護支援センターの開設に尽力し、医療のほか介護保険の分野に活動の場を拡げ、津市の介護保険事業の発展にも寄与した。

さらに、三重大学医学部五十周年記念事業の一環として、平成五年の公益財団法人三重医学研究振興会設立に傾注した。設立後は、二十年にわたり理事長として、県内の医学研究の進展と医療の向上のための優秀で有益な研究に助成し、研究成果の中には「Nature」、「Science」等に掲載された、優れた論文も見られる。

このように、氏の医療の振興発展に寄与した功績はまことに顕著である。

事 績 概 要

保健衛生功労

濱田 正行

津市 77歳



氏は、平成八年五月に社団法人三重県病院協会理事に、平成二十二年五月に理事長に就任し、平成三十年まで二十二年の永きにわたり、県内の医療政策の推進、地域医療の充実に献身的な努力を重ねた。

理事長就任後は、特に県内の救急医療の充実に尽力した。伊賀地域において、二次救急患者の受け入れが困難となった際は会員病院に協力を要請して、受入協力体制を維持し、東紀州地域における医師不足に対しては、県内北勢・南勢医療圏から東紀州地域に医師の応援派遣を行うなど、医療過疎地域における住民の安全・安心の確保に尽力した。また、三重県医療審議会委員のほか、救急医療部会ドクターヘリ導入検討分科会などの専門分科会の委員等に就任し、行政・三重県医師会・三重大学等の医療機関と連携し、各分野で的確な指針と助言を与えた。

さらに、三重県厚生農業協同組合連合会鈴鹿中央総合病院院長として、鈴鹿市における二次救急医療の基幹病院としての重責を担うほか、三重県厚生農業協同組合連合会看護専門学校校長として、看護師の育成にも尽力した。

このように、氏の医療の充実に寄与した功績はまことに顕著である。

事 績 概 要

商工業功労

岡本 直之

名張市 75歳



氏は、平成二十二年十一月に津商工会議所の副会頭に就任して以来、高い指導力と堅実な実行力により、津商工会議所会頭、三重県商工会議所連合会会長など、経済団体の要職を数多く務め、地域経済の活性化と地方創生に多大な貢献をした。

少子高齢化が進む国内市場において、国際展開を積極的に図っていく必要があるとの考えから、三重県商工会議所連合会では初の取組となる海外との協定として、台湾貿易センターと連携促進に係る協定を締結するとともに、三重県から台湾・タイに進出している現地企業への訪問、タイパタヤ東海岸ゴルフ協会との交流、三重県スペイン経済交流ミッションへの参加など、海外交流に尽力した。

また、三重県経営者協会の会長として、低迷していた三重県の障がい者雇用率の改善に向け、障がい者の一般就労だけでなく、障がい者を取り巻く地域全体がステップアップすることをめざしたステップアップカフェの設立準備に熱心に取り組んだほか、三重交通グループホールディングス株式会社では、代表取締役社長、代表取締役会長を務め、旅客輸送業・観光産業を通じた地域の活性化、地域への社会貢献活動を積極的に行っている。

このように、氏の商工業の振興発展に寄与した功績はまことに顕著である。

事 績 概 要

商工業功勞

佐藤 信義

桑名市 87歳



氏は昭和五十四年四月に桑名商工会議所副会頭に就任して以来、積極的に若手経営者や後継者の育成に取り組み、現在でも積極的に地域活性化に取り組んでいる青年部の設立に寄与するなど多大な成果をあげた。

平成十三年に桑名商工会議所会頭に就任後は、積極的に新規事業を展開した。早朝相談や夜間相談にも取り組み、正副会頭が直接出向いて、会員企業の抱える諸問題に真摯に対応するなど、小規模事業者の支援を実施し、融資実績を上昇させるなど、地域の産業、経済の発展に大きく寄与した。

また、サンジルス醸造株式会社の九代目社長として、消費者の嗜好を敏感に捉えた商品開発に注力した。アメリカに現地法人を設立し生産拠点を建設したことにより、たまりしょうゆはアメリカさらにはヨーロッパにも浸透し、日本をはじめ世界の食文化の向上に貢献した。

さらに、三重県食品衛生協会桑員支部長や、桑名市物産振興協会会長、三重県教育委員会委員長、三重県警察本部公安委員会委員長なども歴任し、商工業の分野のみならず、県民の生活に関わる幅広い分野に積極的な提言を行っている。

このように、氏の商工業の振興発展に寄与した功績はまことに顕著である。

事 績 概 要

林業功労

黄瀬 稔

松阪市 76歳



氏は、昭和三十九年木材業に従事して以来、今日まで五十八年の永きにわたり木材業界の組織強化、木材の需要拡大、後継者の育成など木材産業の振興発展に多大な貢献をした。

この間、松阪地区木材協同組合理事長、三重県木材組合連合会会長、三重県木材協同組合連合会理事長、三重県中小企業団体中央会副会長等の要職に就き、県産材の需要拡大を図るため、県産認証材「三重の木」の普及啓発、木材の良さの積極的なPR事業の推進に尽力するとともに、公共建築物の木造化や内装の木質化を推進するなど、林業・木材産業の基盤強化に努めてきた。

また、代表取締役社長を務める株式会社オオコーチは、県内でいち早く製材のJAS（日本農林規格）認証工場となり、品質、性能の保証されたJAS製品の製材や加工技術が高く評価され、平成十一年には木材業界では全国で三例目となる天皇杯を受賞するなど、地域同業者の模範となって業界の振興に尽力した。

さらに、林業・木材製造業労働災害防止協会三重県支部長として、林業や木材製造業の労働災害の未然防止と労働安全衛生の向上にも尽力した。

このように、氏の木材産業の振興発展に寄与した功績はまことに顕著である。

事 績 概 要

交通安全功労

前田 廣行

鳥羽市 83歳



氏は、平成三年、鳥羽地区交通安全協会理事を皮切りに、同協会常任理事、同協会副会長、同協会会長を歴任し、平成三十一年に同協会顧問に就任した。また、平成二十三年には三重県交通安全協会評議員、平成二十五年には同協会理事、平成二十九年には、同協会副会長に就任し、地域の交通安全活動に献身的な努力を重ねてきた。

この間、毎月「交通安全の日」・「横断歩道“SOS”の日」における横断歩道“ハンドサイン”キャンペーンの推進や児童生徒及び高齢者に対する街頭啓発、ハンドルキーパー推進活動、「夕焼け小焼けキャンペーン」を企画し実施するなど、交通安全諸対策を積極的に推進するとともに、警察署や地域と連携した交通安全啓発に取り組んだ。

また、平成二十五年から令和元年まで鳥羽市交通対策協議会会長として鳥羽市内における通学路等の危険箇所の把握を行った上、道路管理者等と連携し危険箇所の改善に努める等、地域における交通安全活動の振興に尽力した。

このように、氏の交通安全の普及活動を通じて、交通事故防止に寄与した功績はまことに顕著である。